「広報しながわ」平成２０（２００８）年１２月１日号より転載
（イラスト：池原昭治）

品川（しながわ）昔（むかし）ばなし

西五反田

天狗の宿り松

西五反田三丁目の徳蔵寺の近くには、江戸時代に大和国柳生藩（現在の奈良県）を治めていた柳生家の下屋敷がありました。柳生家は代々、将軍家へ剣術を教える指南役として仕えていました。下屋敷にあった古い松は、「天狗の宿り松」と呼ばれ、次のようなお話が残っています。

天狗の宿り松がまだ若木だったころのことです。屋敷の庭には松が全部で三本ありました。そのうちの一本が切られ、残った二本も切り倒されようとしていました。「あいたたた……！」「どうしたんだ!?」。声がするほうにみんなが目を向けてみると、ちょっとしたはずみからか、木の上で作業をしていた植木職人が枝からすべり落ち、大きなけがをしてしまいました。「気をつけて作業していたのに、どうしてこんなことに！」「かわいそうに……。町医者を呼びにやったから、もう少しだけがまんするのだぞ」

けがをした植木職人の話は、不思議なことに、はるか遠くの大和の殿様までその日のうちに伝わりました。

さらに殿様から「それは大事な松じゃ。切ってはならぬ。そこに祠を祀れ」とのお達しが、その日のうちに江戸の下屋敷に伝えられ、すぐに祠がたてられました。

その伝達の速さにびっくりした人々は、「この速さはただごとではない。おそらく天狗が伝えたにちがいない」とうわさしました。その後、いつしかこの松を「天狗の宿り松」と呼ぶようになりました。

電話も電報もなかった時代、情報がすぐさま遠くまで伝わるのは、鳥のように自由に空を飛び回る天狗のしわざかもしれないと考えられていたようです。また、天狗が住んでいたり、腰掛けたりしたという「天狗松（あるいは杉）」の言い伝えは、日本各地に残されています。